

**独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第4回
議事要旨**

1. 日時 平成14年12月18日(水)14:00~16:00
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 相澤委員, 阿辻委員, 加藤委員, 倉島委員, 神津委員,
古賀委員, 関根委員, 田中委員, 中山委員, 福田委員, 松岡委員
4. 会議の概要
 - (1) 第1回中間発表(案)について
前回第3回までの諸意見を集約したものを中間発表叩き台として検討し, 次の観点から整理したものを12月末に第1回中間発表(案)として発表することとした。
 - ・第1回発表用として73語を検討してきたが, 言い換え意見が分かれどちらにも理があって決め難いもの, 定着度調査がまだ不十分で定着認定に揺れがあるものがあり, その10語を継続検討とし, 今回の発表は63語とする。
 - ・多義性が大きく且つ意味の区分が比較的鮮明なものは, 1つにまとめるとかえって混乱を起こすので, 見出し語として分ける。
 - ・中間発表であることから, 言い換え語例と説明付与例は全ての語に付す。最終発表では定着度世論調査の結果と広く求めた意見から, 注記を書き込む, あるいは言い換え語例・説明付与例のいずれかを採る, といった総合判断をする。
 - ・見出し語は, 日本語としてカタカナ表示したときに意味を理解できるか否かとの観点から, ローマ字による原語表示はしない。
 - (2) 今後の作業の進め方について
定着度世論調査の結果が1月に出されるため, この数値結果の読み取りと広く求めた意見の整理を行って, 4月の第1回目言い換え最終発表へ向けたとりまとめ, 及び6月の第2回目言い換え中間発表へ向けた対象語の絞り込みを行うこととした。
 - (3) 会議での主な意見
言い換え工夫の提案の仕方として, 言い換え語例の次に用例が出ているが, 逆に文脈を先に出す方が考えが進み理解しやすいのではないか。
実際の文脈で語を分析し, それを機能的に意味を判断していくしか理解の道がないのではないか。身近な概念ではない言葉はまず用例を知りたい。
一度, 整理した形で表す辞書型の方法とまず実際の用例から進めていく方法とを比較した場合, 前者は見た時に判りやすく, 後者は全体の分量が増大すると予想されるので, いずれを採るかは更に考えてみる必要がある。
文脈によって言い換え語例がぴったりそぐわないことは当然の前提としているので, あらゆる文脈において100%適用できるものでないことは断っておく必要がある。
対象語を動詞として扱うか名詞として扱うかで意味が大きく異なってくることがあり, その点を明らかにしておく方がよい。

言い換え語例と説明付与例とが内容的にかなり重複するものがある場合には、この間の調査や広く求めた意見を生かして、最終報告ではどちらを採るか判断すべきである。

審議の過程で委員意見について何らかの点数化を行って参考としなければ收拾がつかないが、委員が同じ価値判断、同じ重み付けで判定でき、記号や点数だけでは言い表わせないものを反映できるような方法なり基準なりを編み出していく必要がある。

以 上